東京都市大学 横浜キャンパス「情報メディアジャーナル」執筆要項

１　まえがき

本誌の掲載記事は，主に，環境情報,メディア,コミュニケーションなどに関する研究・調査論文・活動報告ならびに所感，随想で，他の出版物に投稿または発表されていないものとします．ここでは，自然や社会,人工物の環境,人間行動との関連で「情報」を幅広くとらえていただいて結構です．修士論文，卒業論文等の研究成果も歓迎します.

２　原稿の種類

本誌はＡ４版です．取り扱う記事は以下の通りです.

- 巻頭言
- トピックス　年間を通して，環境情報，メディア，コミュニケーションに関するトピックスを，カラー写真と説明文で紹介するコーナーです．表紙のすぐ後に，２～４ページで巻頭グラビアページとして紹介します.
- 論文
- 解説
- 実施報告
- 学生報告
- エッセー

（これ以外の原稿の種類については，編集委員会が相談に応じます）

３　投稿資格（依頼を含む）

- 本学専任教員，非常勤講師，本学職員.
- 本学学生．ただし，投稿条件および手続きについては，第４項を参照してください.
- 本学外の方で，編集委員会が本ジャーナル誌掲載にふさわしいと認めた方.

４　学生が投稿する場合の投稿条件，および文責

４．１　投稿条件

学生の投稿には，指導教員の承認が必要です．指導教員とは，投稿内容が事例研究や卒業研究に関する場合は担当の指導教員，また，プロジェクトや委員会活動の成果に関する場合は主査や委員長などの責任教員です.

４．２　文責

- 投稿を希望する学生は，あらかじめ執筆内容，および指導教員との共著の有無などについて，指導教員と相談して了解を得てください.
- 共著でない場合においても，指導教員名を文末に明記し，指導教員は執筆者とともに文責を負うこととします.

＜例＞　（指導教員　東京都市大学環境学部教授　情報太郎）

５　原稿の長さ

５．１　巻頭言

本文は１ページです．39 字×46 行×1 段=1794 字です．本文以外に，タイトル(18 ポ，明朝)，著者名(9 ポ，明朝)，著者写真が入ります．文中の句読点は「，(全角)」，「．(全角)」とします．文中の数字は，１桁は全角，２桁は半角

５．２　トピックス

１トピックスは，カラー写真と説明文からなります．Ａ４版１ページに，２～３トピックとします．説明文(9 ポ，明朝)は 400 字程度です．

５．３　論文，解説，実施報告，学生報告，エッセー

- 本文は 10 ページ以内です．ただし，プロジェクト等の報告については，別途，編集委員会で検討し，10 ページを超える場合もあります．
- 刷り上がり 1 ページは，原則として，10 ポ２段組で，等幅 25 字×48 行×２段=2400 字です．ただし，上記刷り上がりページ数には，表題(18 ポ，明朝)，著者名(12 ポ，明朝)，要旨（最大 52 字×８行以内)，キーワード(10 ポ，明朝，52 字×２行以内)，図，表，参考文献，著者紹介，章節番号等が含まれますので，執筆時には，その分だけ本文原稿行数を減らして下さい．

６　原稿の体裁

原則として下記のような構成でお願いします．

- 言語(本文)　　本文は和文，英文双方とも可能です．
- 表題　　簡潔にその内容を具体的に表すように工夫してください．必要があれば副題を付けてもかまいません．副題は「-」で囲んでください．表題の言語は本文が和文の場合は和文で，英文の場合は英文とします．
- 要旨　　原則として和文で，400 字程度です．
- キーワード　　3～5 語程度をピックアップしてください．本文が和文の場合は，和文のキーワード，英文の場合は英文のキーワードとします．
- 著者名　　表題の下に，著者名を入れます．本文が英文の場合，著者名はローマ字で，カタカナ表記する場合は氏名の順に記します．

＜例＞

JOHO Taro(苗字を大文字と名前の冒頭の１文字のみ大文字)

ジョウホウ タロウ(氏名の間に半角スペース)

- 著者脚注　　原稿の最後に，著者名のローマ字表記と，所属・職名を記してください．原則として下記＜例＞のように氏名の順に記し，苗字と名前の最初の文字を大文字とします．学生の年次は発行時のものとします．

＜例＞

JOHO Taro　東京都市大学メディア情報学部情報システム学科教授

KANKYO Hanako　東京都市大学環境学部４年生

7　執筆上の注意事項

7．１　句読点

句点には「．(全角)」，読点には「，(全角)」を用いてください.

7．２　文体

トピックスは「です・ます調」で執筆してください.

7．３　章節の番号付けの方法（スタイル，フォント）

（１）章節の番号の振り方．原則的として，下例に従って付けてください.

(例)

１ まえがき（ポ 12，明朝）

２　…….

３ …….

３．１　（ポ 10.5，明朝）

３．２……..

（1）

（2）….

(a)

(b)

８　むすび

謝辞

参考文献

執筆者紹介

7．４　図，表などの書き方

- 図，写真，表は，別紙に記載し，まとめて添付してください.
- 本文中に挿入希望個所を指示してください.
- 一連番号を付け，説明を記してください．図の番号および説明(ポ 10，ゴシック)は当該図の下に，表の番号および表の説明は当該表の上に記してください.

＜図例＞

図１　２号館外観

＜表例＞

表 2　各調査の有効回収数

1 年次 実施調査	1 期生 97 年 4 月入学	2 期生 98 年 4 月入学	3 期生 99 年 4 月入学
第 1 回	238 名	209 名	268 名
第 2 回	232 名	189 名	246 名
第 3 回	179 名	190 名	143 名[*2] 187 名[*3]
在籍者数[*1]	238 名 (編入生除く)	205 名	275 名

- 図の原稿は，刷り上り寸法の２～３倍大に明瞭に描いてください.
- 図，写真は，必ず，元画像を使い，解像度を落とさない状態で添付してください．紙に印刷したものは使わないでください．JPEG の場合は，高解像度で圧縮してください.
- 図表内の文字は，ゴチック文字とし，刷り上がり状態で，９ポイント以上となるようにしてください.
- ページ数の換算の目安

1)　刷り上がりの図，表が，説明を含めて，本誌片段(ヨコ８cm 程度，タテ 1/3 ページ)に入る場合は，16 行分程度で換算してください.

2)　刷り上がりの図，表が，説明を含めて，本誌両段にわたる場合，たとえば，本誌１ページの 1/2 を要する場合は，１図が 48 行分となります．余裕をみて換算してください.

７．５　注の書き方

- 注は論文の末尾に入れる「末尾注」とし，本文中に（注１）のように記します.

＜注例＞

（注１） このように分けるのは先述の「クォーター制」の変形である.

７．６　参考文献の書き方

1)　本文中での参考文献の引用方法

本文中の該当箇所に参考文献ナンバー，あるいは著者名を以下のように記します.

＜例１＞

[１]によれば・・・

＜例２＞

[橋内]によれば・・・

2)　参考文献の表記方法

参考文献は論文の最後に一括して記載し，雑誌の場合は著者，表題，雑誌名，巻，号，ページ，発行年（西暦）を，単行本の場合は著者，書名，発行所，発行年（西暦）を，書いてください．Web サイトは，サイト名と URL を記します.

＜例１＞

[1] 古藤保次：“TIES と電子教材，”帝塚山経済・経営論集，第９巻，pp.37-44，1993

[2] Ueberla,J.:“Analysing a simple language model – some general conclusion for language models for speech recognition,”Computer Speech andLanguage,Vol.8,No.2,pp153-176,1994

[3] 佐伯　眸：コンピュータと教育，岩波書店，1997

[4] Stubds,M.: Discourse Analysis? The Sociolinguistic Analysis of Natural Language, Basil Balckwell Ltd.,1983

[5] 情報基盤センターYC：http://www.yc.tcu.ac.jp/~cis/

＜例２＞

橋内　武　1988　会話のしくみを探る　日本語学，7，43-51

Young,Russel. 1988 Language maintenance and language shift in Taiwan. Journal of Multilingual and Multicultural Development,9(4),323-330

東　照二　1997　社会言語学入門　研究社出版

Fewster,Stuart. 1988 Japan from Shogun to Superstate. England:Paul Norbury Publications.

なお，注の中の参考文献も通し番号等で，参考文献に記入してください.

＜注の中の参考文献例＞

（注２）パネルデータとは，同一回答者に対して，一定時間経過後に反復的に調査を繰り返すデータ収集法によって得られたデータである．社会調査の分野では，Lazarsfeld ら[10]が投票行動調査について行ったのが初めとされる．１回限りのデータ収集法や，無記名の反復データと比較して，対象集団の全体としての動向だけでなく，個人の時間経過に伴う変化がきちんと測定できる方法である.

（注３）オンライン調査を利用した場合の影響の検討については別途報告する[11]を参照.

８　原稿の提出形式

- 原則として Microsoft WORD ファイルまたはプレインテキストにより提出してください. 図，表は別にして添付してください．なお，図，表については，７.３項をご覧ください.

９　校閲

- 寄稿された原稿は，編集委員会で主に形式面および読みやすさの点から校閲し，必要があれば著者に照会します．ただし，誤字・脱字・言いまわしなどについては著者責任となりますので，ご注意ください.
- 用語の統一，内容に明らかな誤りや不適切な表現等がある場合は，編集委員会が著者に照会の上，訂正・書き直しを要請することがあります.

１０　別刷り

- 別刷りを希望される場合は，著者校正の際にお申し込みください．ただし，別刷り料金は，著者負担とします.

１１　著作権

- 発表原稿の著作権は東京都市大学に帰属します.

１２　出版形態

- 本誌とは別に，PDF 形式で公開します.